令和3年6月14日

貧酸素水塊速報（2021年）

【発行】○ 千葉県水産総合研究センター　千葉県農林水産技術会議
神奈川県水産技術センター　内湾底びき網研究会連合会
【協力】　千葉県環境研究センター　○ 東京都環境局
第三管区海上保安本部　（国）国立環境研究所
○ モニタリングポスト（海上保安庁，国土交通省 関東地方整備局）
（今回の速報は"○"の機関の観測データを使用して作成しました）

令和3年6月2日観測結果

貧酸素水塊は浦安沖から千葉沖にかけて分布しており、湾奥ではDOが1.5 ml/Lを下回る海域がみられました（図1）。

縦断ラインの鉛直分布をみると、貧酸素水塊の厚みは薄く、小規模でしたが（図2,3）、横浜沖～船橋沖にかけての東京湾西岸で濃い赤潮が発生しており、今後急速に貧酸素水塊が拡大する可能性があります。

水温は表層20～22℃，底層16～21℃でした。

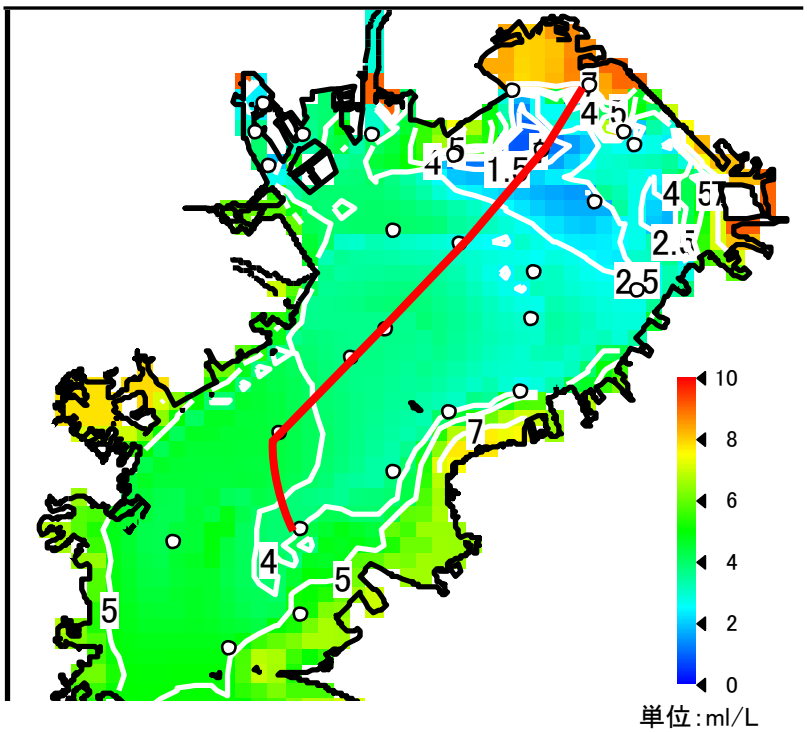

図1　底層の溶存酸素量分布（赤線は縦断ライン）

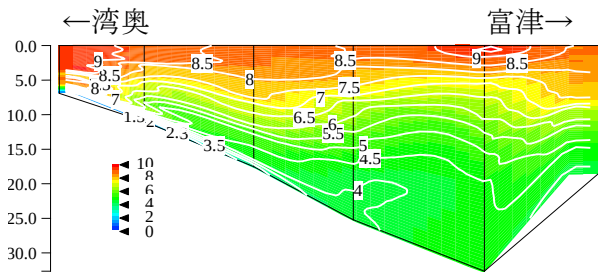

図2　縦断ラインでのDO鉛直分布

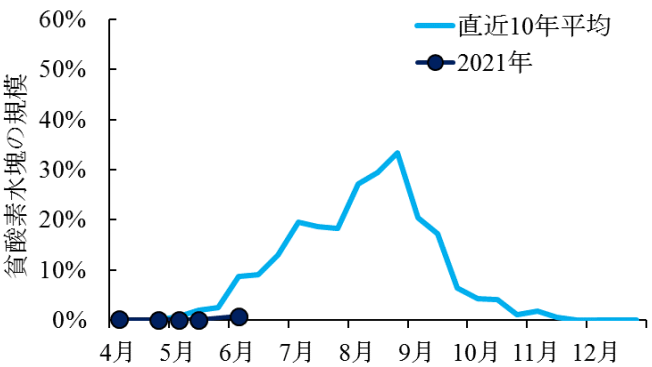

図3　貧酸素水塊の規模
（左図で貧酸素水塊（2.5ml/L以下）が占める割合）